

## 服用効果の判定 慢性でも通常二カ月内に

**Q** 漢方薬はどのくらい飲めば効果が表れますか。長期間服用しないと効果が表れないと聞きました。が、その判定はどのようにしているのですか。

ん」と呼ぶこうした好転反応は通常二週間以内に起こる。

一方こじれた病気であっても、疲れなくなつた、食欲が出てきたなど、なんらかの好転症状の判定は、通常の慢性疾患では四週間から八週間で判定できる。

**A** 漢方薬の効果の判定に際してはまず、処方した薬によって食欲不振や発疹など不都合な副作用が起こっていないか、チェックする。不都合な反応は通常は二週間以内に評価できる。ただし漢方薬は自己治癒力を高める薬が多いので、治る過程で症状が一時的に強くなったり、思わぬ他の症状が出て、患者さんが驚くことがある。

一般には漢方薬は作用がマイルドで長期間の服用によって徐々に改善していくものと信じられていますが、漢方薬でも即効性のある場合が少なくない。例えば、かぜや腹痛などの漢方薬の効果は、薬が合えば数十分で症状が消失する。

それが副作用なのか好転反応なのかの区別は難しいので、不都合な症状が起こったらただちに治療者に相談していただきたい。瞑眩（めんげ

慢性疾患の治療に際しては、一般に有害作用の有無は二週間以内にチェックし、効果の判定は二カ月程度で評価し、変化がなければ別の処方に変えて経過を観察している。